

第23期地球惑星科学委員会 IUGS 分科会（第6回）議事録

日時： 平成28年10月11日（火）10:00～12:00

場所： 日本学術会議5階5-C（1）会議室

出席者： 奥村晃司、大久保泰邦、小川勇二郎、北里 洋、斎藤文紀、佃 栄吉、西 弘嗣、益田晴恵、松本 良

欠席者： 木村 学、中田節也、西垣 誠、渡辺真人

事務官： 駒木大介

議事次第：

1) 前回議事録を承認した。

2) 前回以降の活動状況：

IUGS 分科会報告（資料2-1）およびIUGS活動報告（資料2-2）を学術会議宛に提出した。IUGS 分担金は、学術会議を通じて引き続き支払ってもらえることになった。

3) IUGS-IGC参加報告：

資料3-1、資料3-2にしたがって、第35回万国地質学会議（IGC）および国際地質科学連合総会、理事会報告があった。IGCは、117カ国、4000強が参加した。日本人参加者は78名であった。5日間の会期中に200を越すテーマのもとに750のセッションがあり、活発な議論がなされた。主テーマは、**Fundamental Geoscience, Geoscience in the Economy, Geoscience in Society**の3つであった。ただ、プログラムが前日にならないと印刷されないなど、運営上のトラブルが散見された。

IUGS総会、および理事会が IGC 会期中に開催された。2012～2016期の活動報告、財務報告があり、総会において承認された。新しい委員会、タスクフォースとして、**Geoheritage Committee, Geohazard Task Group**が説明され、承認された。**Geohazard Task Group** は小川勇二郎理事が中心となって提案したものである。

37回IGC立候補都市のプレゼンがあり、投票の結果、韓国釜山市が 2024年 IGC開催都市として決定された。2016~2020年期の役員選挙が行われ、会長にカナダの **Qiuming Cheng**、事務局長にアメリカの **Stanley Finney**、そして財務担当理事に北里 洋が選ばれた。会長、事務局長、財務担当が事務局を構成する。総会終了後、新旧理事会、**IGC Council** が開催され、さまざまな活動の引き継ぎが行われた。

報告後、**IUGS** 活動について意見交換を行い、**IUGS** が **AGU, EGU, AOGS** などとは違う活動を行うためにさらに努力が必要であるなどの指摘があった。

4) **IUGS** 分科会委員長の交代について：

北里が **IUGS Bureau member** になったため、傘下の委員会などの委員長職にはつけないことになった。互選の結果、現副委員長の松本 良氏が第23期学術会議期間中の委員長になった。

5) **Geohazard Task Group** の立ち上げと展開：

資料4-1、4-2に基づいて、**Geohazard Task Group** の趣旨と活動方針が小川勇二郎理事、大久保泰邦チェアラーから説明された。国際的なジオハザードネットワークの構築と運用、全球ハザードマップのコンパイル、ハザードに関連する国内人材育成ネットワーク構築の3つの柱を立てて推進する。キックオフ会合は、2017年のJpGUの折に、国際セッションを立て、有識者を含む関係者の意見聴取を行うことにしている。

6) 地学オリンピック、**GeoPark**などの動きについて

資料5にあるように、地学オリンピック三重大会が成功裏に終わったこと、日本チームは、金メダル3、銀メダル1の素晴らしい成績を上げたことを確認した。ジオパークについては、ユネスコが **IGGP** という新組織を立ち上げ、**IGCP** と **Global Geopark** とを所掌することになったこと、国内外ともに粛々と活動が続いているとの情報を共有した。

7) その他

IUGS 傘下の国際層序学委員会、第四紀層序小委員会の活動が報告された。完新世を分けて、人間活動の影響が地層中に残された最近を

Anthropocene（人新世）とする議論、更新世中期の基底の模式（GSSP）を千葉県房総半島の露頭に指定しようという提案について、現状が紹介された。本提案は、2017年5月を締め切りとして準備中であるとのことである。